

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	運動療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて運動療法治療経験39年有する	担当者	河元 岩男	授業方法	講義・実習	単位数	1
到達目標	1、維持目的の関節可動域運動の理論を理解し実践できる。 2、関節モビライゼーションの理論を理解し実践できる。 3、筋ストレッチング・マッサージの理論を理解し実践できる。 4、筋力維持増強運動の理論を理解し実践できる。 5、筋持久力、全身持久力の理論を理解し実践できる。			評価方法			
授業概要	前期において、運動療法の基礎理論を学習した。この授業では、関節可動域訓練・個別筋筋伸張運動・筋力増強訓練・持久力訓練・協調訓練の実技を習得する			期末試験 60% 実技テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法Ⅰ 徒手理学療法(四肢編)	使用器材	徒手筋力計モービィ、油圧式ピンチヒッター、セラバンド、鉄アレイエルゴメトリー				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	肩関節1 機能解剖学と運動 関節モビライゼーション						
第2週	肩関節2 ストレッチング、マッサージ						
第3週	肩関節3 筋カトレーニング						
第4週	肩関節まとめ 授業アンケート1						
第5週	肘関節・前腕 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第6週	手関節・手指 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第7週	肘関節・前腕、手関節・手指 まとめ 授業アンケート2						
第8週	股関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第9週	股関節2 ストレッチング、マッサージ						
第10週	膝関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第11週	膝関節2 ストレッチング、マッサージ						
第12週	足関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第13週	足関節2 ストレッチング、マッサージ						
第14週	下肢の筋カトレーニング						
第15週	下肢のまとめ 授業アンケート3						
授業外 学習指示等	項目の内容に沿って解剖学、生理学、運動学を復習すること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法技術論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約39年	担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、関節運動学を勉強し、さらにそれを基に、特殊テクニックを習得する。			評価方法			
授業概要	1. 軟部組織モビライゼーションの理論と実際 2. 関節モビライゼーションの理論と実際 3. モーターコントロールの理論と実際			実技試験 50% 理論試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プリント、理学療法特殊テクニック	使用器材	スライド、ビデオ、DVD				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	関節運動学 その1	◎凹凸の法則、副運動、構成運動など					
第2週	関節運動学 その2	◎各関節(肩・肘・手・指)					
第3週	関節運動学 その3	◎各関節(股・膝・足指)					
第4週	小テスト1 授業アンケート						
第5週	関節モビライゼーション(上肢)	理論・実技					
第6週	関節モビライゼーション(下肢)	理論・実技					
第7週	関節モビライゼーション(脊柱)	理論・実技					
第8週	小テスト2 授業アンケート						
第9週	軟部組織モビライゼーション	理論					
第10週	軟部組織モビライゼーション(マッサージ)	理論・実技					
第11週	軟部組織モビライゼーション(ストレッチング上肢)	理論・実技					
第12週	軟部組織モビライゼーション(ストレッチング下肢、体幹)	理論・実技					
第13週	モーターコントロール	理論					
第14週	モーターコントロール	実技					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習として教科書をみておくことが大切。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	日常生活活動学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当者	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 各疾患でのADLでの問題点を抽出し、ADL訓練ができる。 2 起居動作や移動動作における問題点を動作観察・分析から説明できる。 3 適切な移乗介助ができる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する実技の習得。			期末試験 100%			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	ベッド、車椅子、松葉杖、一本杖				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	基本動作について実技(寝返り動作:背臥位⇔腹臥位)						
第2週	基本動作について実技(背臥位からの座位への起き上がり動作)						
第3週	基本動作について実技(椅座位からの立ち上がり動作)						
第4週	基本動作について実技(床からの立ち上がり動作)						
第5週	歩行指導(杖歩行含む)						
第6週	ADLを支援する機器						
第7週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(片麻痺編)						
第8週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(パーキンソン病編)						
第9週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(頸髄・脊髄損傷編)						
第10週	疾患別ADL指導:関節リウマチ患者のADL						
第11週	疾患別ADL指導:大腿骨頸部骨折患者のADL						
第12週	疾患別ADL指導:変形性膝関節症・大腿切断患者のADL						
第13週	車イス動作実技(キャスター上げ含む)						
第14週	トランスファー実技全般						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	内部障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	呼吸器・循環器疾患患者への理学療法経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	循環器障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。代謝障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。			評価方法			
授業概要	循環器障害・代謝障害を系統別に分類し、障害を引き起こす疾患の成り立ちを解説した上で理学療法の基礎的なガイドラインを提示し、基本的な治療方法を実践する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	最新 理学療法講座 内部障害理学療法学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	循環器系の解剖学・生理学						
第2週	循環器系の生理学						
第3週	循環不全の病態と呼吸器疾患 (心不全の病態)						
第4週	循環不全の病態 (心筋虚血の病態)						
第5週	循環不全の病態 大動脈疾患・閉塞性動脈硬化症の病態)						
第6週	循環不全の病態 (DVTの病態)						
第7週	循環器理学療法のための評価(I)						
第8週	循環器理学療法のための評価(II)						
第9週	循環器理学療法基本手技(運動処方)						
第10週	循環器理学療法基本手技						
第11週	代謝疾患(糖尿病)総論						
第12週	代謝疾患(糖尿病)の生理学						
第13週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法評価						
第14週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。(60分)						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	地域リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	介護老人保健施設、訪問リハの経験有り	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 介護保険の仕組みについて説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおいて、理学療法士の役割や仕事について説明ができる。			評価方法			
授業概要	1 地域リハビリテーションとは何かを理解し、介護保険制度の知識を深める。 2 地域リハビリテーションに関する様々な制度を理解する。 3 高齢者の特徴を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	地域リハビリテーション学テキスト	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	地域リハビリテーション学総論						
第2週	地域リハビリテーションの考え方						
第3週	介護保険制度下のリハビリテーション						
第4週	介護保険サービス概論						
第5週	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割						
第6週	地域支援事業に中での理学療法士の役割						
第7週	介護保険サービス下での理学療法士の役割						
第8週	介護老人福祉施設での理学療法士の役割						
第9週	介護老人保健施設での理学療法士の役割						
第10週	訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第11週	通所リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第12週	通所介護での理学療法士の役割						
第13週	理学療法士が考える施設における体操・レクレーションについて						
第14週	国試対策(地域リハビリテーション分野)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	地域在宅理学療法演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	在宅理学療法の経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 介護保険分野での様々な課題について問題解決することができる。 2. 個別・集団訓練・レクリエーションや体操について必要に応じて対応することができる。			評価方法			
授業概要	1. 介護予防についての理学療法を説明できる。 2. 地域理学療法での評価法を説明できる。 3. 在宅での理学療法やレクリエーションの方法を説明できる			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	高齢者リハビリテーション実践マニュアル	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	地域リハオリエンテーション						
第2週	リハビリテーション実施計画書の概要						
第3週	介護予防のための心身機能評価						
第4週	フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニアに関する評価						
第5週	地域高齢者を対象とした運動機能評価を実施する						
第6週	介護予防のための運動プログラムの指導を体験する						
第7週	地域リハでの必要な介護技術の体験(トランスファー・ポジショニング等)						
第8週	在宅高齢者に対する訪問リハビリテーション事例についての演習						
第9週	地域リハの前半復習						
第10週	地域リハでの評価・治療・体操・レクリエーションの演習①						
第11週	地域リハでの評価・治療・体操・レクリエーションの演習②						
第12週	地域リハでの課題に対するグループディスカッション①、グループワーク①						
第13週	地域リハでの課題に対するグループディスカッション②、グループワーク②						
第14週	各班でのグループワークプレゼンテーション・総括						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べる。グループワークにきちんと参加すること。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で検査・評価・手技療法の経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	評価の実際を実技を通して学ぶ。 評価項目別に手技、効果判定、を学ぶ。 診るべきポイントを習得し臨床に役立てれるように練習する。			評価方法			
授業概要	中枢神経系、筋骨格系、内部、発達障害の機能評価の手段として必要な各種検査法について講義・実習するとともに、その検査結果をいかに統合し解釈して問題点の抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。また、各障害に対する治療手技や方法を学ぶ。			実技試験 60% 中間テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学	使用器材	ティルトテーブル、検査器具一式				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション、臨床実習とは						
第2週	臨床実習における評価と心構え、学生のあるべき態度						
第3週	レポートの書き方 ボトムアップ、トップダウン						
第4週	バイタル測定						
第5週	ティルトテーブル						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	整形外科的検査(腰椎及び下肢)						
第8週	整形外科的検査(上肢)						
第9週	協調性検査						
第10週	小テスト2(整形外科、協調性)、授業アンケート						
第11週	片麻痺機能検査(上田法 上肢)						
第12週	片麻痺機能検査(上田法 下肢)						
第13週	動作分析(寝返り、起き上がり)						
第14週	診療記録の書き方(SOAP)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	理学療法評価学Ⅱの応用になるので理論を事前に把握しておきましょう。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	物理療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	物理療法機器を一人でも扱えるようになる。 各種機器の治療特性を理解する。 疾患別に治療器を選べるようになる。			評価方法			
授業概要	各種物療機器の取り扱い方と実技を行い技法を習得する。			実技試験 60% 中間テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法テキスト 物理療法	使用器材	物理療法機器				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	温熱療法実技 ① ホットパック						
第2週	温熱療法実技 ② パラフィン						
第3週	温熱療法実技 ③ 極超短波						
第4週	温熱療法実技 ④ 超音波						
第5週	寒冷療法実技 アイスマッサージ						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	光線療法実技 紫外線、赤外線、レーザー						
第8週	水治療法実技 ① 過流浴						
第9週	水治療法実技 ② ハバードタンク						
第10週	小テスト2 授業アンケート						
第11週	電気療法実技 ① 低周波						
第12週	電気療法実技 ② 干渉波						
第13週	牽引療法実技 頸椎、腰椎						
第14週	マッサージ実技 マッサージ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業ではより多く機械に触れ、臨床で扱えるようにしましょう。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	救急救命学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	医療領域のみならず介護保険領域や福祉領域での安全管理の重要性を学ぶ。現場で適切に対応できるよう安全管理について学ぶ。容態の急変が起こった際、的確に、迅速に対応できるよう十分な知識をつける。安全管理や救急対応について学修し適切な実践が行えるよう研鑽する。			評価方法			
授業概要	救急救命について理解する。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	安全管理学救急医療学	使用器材	スライド、ビデオ、DVD・AEDハートスタート				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション	なぜ救急医療学を学ぶのか					
第2週	安全管理学総論	ハインリッヒの法則					
第3週	医療・介護施設での安全管理	医療・介護施設でのリハビリテーション					
第4週	感染症にたいする安全管理	院内感染対策					
第5週	転倒予防と安全管理	転倒の要因とリハビリテーション					
第6週	医療・リハビリテーション機器の安全管理	関連法規と安全基準					
第7週	安全管理を高める連携と教育	危険予知トレーニング					
第8週	救急医療学総論	緊急を要する病態と臨床所見					
第9週	救急医療での主な病態	中枢・循環・呼吸器障害 外傷					
第10週	急性期・周術期の循環・代謝動態	ムーアーの分類・術後アセスメント					
第11週	ICUでのリハビリテーション	救命救急でのリハビリテーションの実際					
第12週	高度急性期リハビリテーションの実際	急性呼吸不全・急性心不全・脳卒中・熱傷					
第13週	在宅での安全管理と緊急時の対応	緊急時の判断基準					
第14週	一次救命処置	AEDと手順					
第15週	まとめ	試験対策					
授業外学習指示等	末尾の要点Checkを復讐すること						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	精神医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	精神医学の基礎を学ぶ ・疾患に対する特徴と治療法・診察方法を学ぶ ・パーソナリティについて学ぶ			評価方法			
授業概要	精神疾患について理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神神経疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン・DVD・配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	認知症総論(精神機能と障害)						
第2週	アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症						
第3週	ピック病・レビー小体型認知症						
第4週	てんかん						
第5週	アルコール依存症・アルコール以外の精神作用物質依存						
第6週	うつ病						
第7週	双曲性障害						
第8週	統合失調症						
第9週	不安症・強迫症						
第10週	急性ストレス反応・PTSD						
第11週	睡眠障害						
第12週	摂食障害						
第13週	パーソナリティー障害						
第14週	国家試験過去問1(精神医学分野)						
第15週	国家試験過去問2(精神医学分野)						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	客観的臨床能力演習	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験		担当者	松本 和代	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	今までの授業の集大成とし、一連の復習を行う ・各評価項目の測定方法を復習する ・評価の流れを理解する			評価方法			
授業概要	臨床実習を控えた学生に、知識・技能・態度の3領域の再学習を行う。 臨床で遭遇するであろう事象を繰り返し学習し、演習する事によって 臨床実習を裏り多きものにする事をねらいとする。			実技テスト 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材	評価道具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	療法士面接 バイタルチェック						
第2週 (2コマ)	関節可動域訓練						
第3週 (2コマ)	関節可動域測定						
第4週 (2コマ)	関節可動域測定						
第5週 (2コマ)	徒手筋力訓練						
第6週 (2コマ)	徒手筋力訓練						
第7週 (2コマ)	徒手筋力訓練						
第8週 (2コマ)	協調性検査						
第9週 (2コマ)	腱反射・感覚検査						
第10週 (2コマ)	形態測定						
第11週 (2コマ)	整形外科系テスト						
第12週 (2コマ)	日常生活活動検査						
第13週 (2コマ)	脳神経検査・片麻痺機能検査						
第14週 (2コマ)	運動失調検査						
第15週 (2コマ)	バランス検査						
授業外 学習指示等	復習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院等にて評価学に該当する検査・測定等経験	担当者	松本 和代	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 臨床実習とは何かを理解し、実習で何をするのかを説明できる。 2 臨床実習に向けてやるべきこと、リスク管理を理解する。 3 代表的な疾患に対して、障害像を理解し、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。 4 代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。			評価方法			
授業概要	中枢神経系、筋骨格系、内部、発達障害の機能評価の手段として必要な各種検査法 について講義・実習するとともに、その検査結果をいかに統合し解釈して問題点の 抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。			実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床実習とケーススタディ 第3版	使用器材	検査器具一式				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	臨床実習とは何か？						
第2週	臨床実習とは何か？						
第3週	臨床実習で何をするのか？						
第4週	臨床実習で何をするのか？						
第5週	クリニカルクラークシップとは						
第6週	クリニカルクラークシップとは						
第7週	レポートの書き方						
第8週	レポートの書き方						
第9週	臨床実習に向けて何を準備するのか？						
第10週	臨床実習に向けて何を準備するのか？						
第11週	臨床実習におけるリスク管理						
第12週	臨床実習におけるリスク管理						
第13週	神経障害のケーススタディ						
第14週	神経障害のケーススタディ						
第15週	神経障害のケーススタディ						
授業外 学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	生活環境論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	家屋改修を含めた生活環境調整経験有り	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 疾患や障害と生活環境の関係を理解する。 2. 住環境の必要性や具体例を理解する 3. 代表的な自助具や福祉機器について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学ぶ。 理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのかを学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト 生活環境論	使用器材	パソコン 配布資料、福祉用具(車椅子、杖など)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	総論						
第2週	生活環境論とは						
第3週	生活環境整備の留意点						
第4週	国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)						
第5週	バリアフリーの関連諸制度						
第6週	ノーマライゼーション						
第7週	ユニバーサルデザイン						
第8週	住環境 意義						
第9週	住環境 流れと注意点						
第10週	住環境 整備対策						
第11週	福祉用具 種類と機能						
第12週	福祉用具 法律面・制度面						
第13週	福祉用具 国家試験対策						
第14週	福祉用具 臨床実習対策						
第15週	事例検討						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験11年	担当者	山本 裕晃	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	筋骨格系に関する疾患別理学療法の評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。			期末試験 50% 実技試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト運動器障害理学療法Ⅱ	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	総論						
第2週	頸部疾患						
第3週	腰部疾患						
第4週	脊椎手術						
第5週	肩関節周囲炎						
第6週	肩の外傷						
第7週	膝靭帯損傷と半月板損傷						
第8週	捻挫と肉離れ						
第9週	頸部疾患 実技:評価と治療						
第10週	腰部疾患・脊椎手術 実技:評価と治療						
第11週	肩関節周囲炎・肩の外傷 実技:評価と治療						
第12週	膝靭帯損傷と半月板損傷・捻挫と肉離れ 実技:評価と治療						
第13週	実技試験対策						
第14週	実技試験						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当者	小倉 信作	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 100%			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第2週	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第3週	片麻痺 日常生活における身体機能の活用 ①						
第4週	片麻痺 日常生活における身体機能の活用 ②						
第5週	片麻痺 基本動作 車いす操作						
第6週	片麻痺 合併症とその対策						
第7週	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法						
第8週	演習1						
第9週	演習1						
第10週	演習1						
第11週	運動失調とは						
第12週	小脳性運動失調の理学療法						
第13週	小脳性運動失調の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第14週	パーキンソン病とは						
第15週	パーキンソン病の理学療法						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	発達障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在心身障害児施設に勤務中	担当者	小倉 秋奈	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常発達、反射の理解や流れを把握し、述べることができる。 2 各疾患の特徴を理解し、リハビリについて知識を深められる。 3 「小児理学療法とは何か」を理解することができる。			評価方法			
授業概要	発達障害について、総合的、体系的に学習する。 正常児の発達を学習した後、運動発達障害児について学習する。 小児の疾患の特徴を理解し、理学療法を実施する上で必要となる 評価介入の概要と構成要素を学習する。			期末試験 100%以上 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	小児理学療法学テキスト 改訂第3版	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション、胎児期・新生児期の正常運動発達						
第2週	正常運動発達(1)						
第3週	正常運動発達(2)						
第4週	正常運動発達(3)						
第5週	正常運動発達(4)						
第6週	姿勢反射の発達						
第7週	発達・運動発達の評価と運動発達の理論						
第8週	脳性麻痺(1)						
第9週	脳性麻痺(2)						
第10週	筋ジストロフィー						
第11週	重症心身障害児						
第12週	低出生体重児・ハイリスク児						
第13週	発達障害児						
第14週	ダウン症						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	「小児のリハビリは難しい」という考えをまずはなくし、「子ども」の成長をまずは知ることから頑張っていきましょう。理解するには時間がかかりますが、楽しく「子ども(小児)」について学んでいきましょう。						